

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 12日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530750

研究課題名（和文） 認知症の精神症状に対する行動的介入療法プログラムの開発と検証に関する研究

研究課題名（英文） Study on the development and validation of behavioral intervention therapy program for psychiatric symptoms in dementia

研究代表者

佐藤 順子 (SATO JUNKO)

名古屋市立大学・大学院医学研究科・研究員

研究者番号：90566233

研究成果の概要（和文）：認知症の精神症状は、中核症状と比較して介護負担が重い。そこで、今研究では認知症患者の精神症状に対して、高い有効性が実証されている行動的介入療法のプログラム開発し、オーブントライアルを実施し、その効果を検証した。対象者は八事病院にて焦燥感の顕著なアルツハイマー病14名とレビー小体型認知症8名の主介護者である。介護者向けマニュアルにそった行動的介入プログラムを、週に1回約2時間のセッションを12回行う。精神症状の評価尺度として治療開始前後にCohen-Mansfield Agitation Inventory (CMAI)とAgitation Behavior in Dementia Scale (ABID)により焦燥感を評価した。レビー小体型認知症4名の患者は途中で精神症状が悪化し脱落した。残りの14名は治療開始前後のCMAIとABIDが有意に減少した（ $P < 0.03$ ）。認知症の焦燥感に関して、介護者に行動的介入療法を行う治療は有効だった。介護者の不適切な対応により、認知症の精神症状による問題行動が生じている場合が多かった。

研究成果の概要（英文）：Agitated behaviors are frequently observed in patients with dementia and can cause severe distress to caregivers. However, little evidence of the efficacy of nonpharmacological interventions for agitated behaviors exists in patients with dementia. The present pilot study aimed to evaluate the behavioral management technique (BMT) program developed by the Seattle Protocols for patients with agitated behaviors in Japan. Eighteen patients with dementia (Alzheimer's disease, $n = 14$; dementia with Lewy bodies, $n = 4$) participated in an open study testing the effectiveness of the BMT program. The intervention consisted of 20 sessions over the course of three months. The primary outcomes were severity of agitation in dementia as measured using the Agitated Behavior in Dementia scale (ABID) and the Cohen-Mansfield Agitation Inventory (CMAI). The BMT program resulted in significant reductions in the total scores of both the ABID and CMAI. Although both the physically agitated behavior scores and the verbally agitated behavior scores of the ABID improved significantly, the psychosis symptoms did not improve after intervention. The BMT program is likely to be beneficial to caregivers suffering from distress as a result of agitated behaviors. In the future, a well-designed study to develop the BMT program more fully is needed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：認知症、精神症状、行動的介入療法、焦燥感

1. 研究開始当初の背景

認知症の精神症状、ことに妄想、幻覚、焦燥感や攻撃性などは患者および介護者にきわめて強いストレスを与える。従来は、薬物療法が認知症の精神症状への治療の主体であった。しかし、2005年に米国食品医薬品局による勧告後、抗精神病薬の使用が認知症患者の生命予後に影響する危険性があり、現在では事実上使用ができない。これに対し、行動に焦点をあてた行動的介入療法 (behavior management techniques: BMT) は、その有効性が注目されている。1990年にワシントン大学の Teri & Logsdon らのグループにより、認知症の焦燥感や攻撃性に対処する目的で開発された介護者のための教育プログラムである。RCTにより、その高い有効性が報告されてきた (Teri et al. 1997, 2003, 2005, Mittelman et al. 1996)。定型抗精神病薬と同等の効果があることも確認された (Teri et al. 2000)。しかし、現時点では、本邦において BMT に関する検討はなく、その導入もなされていない。

2. 研究の目的

認知症患者の精神症状に対して、高い有効性が実証されている行動的介入療法のプログラムを参考に、本邦の臨床の現状に応じた治療プログラムを開発し、オープントライアルを行い、その有効性を検証し、広く啓蒙活動を行うのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

対象者は八事病院にて焦燥感の顕著な Probable AD (アルツハイマー病) 14名と Probable DLB (レビー小体型認知症) 8名の主介護者である。介護者向けマニュアルにそった行動的介入プログラムを、週に1回約2時間のセッションを12回行う。ロールプレイなどで介護者には技法を学んでもらい、自宅ではホームワークを行うように指導する。精神症状の評価尺度として治療開始前後に Cohen-Mansfield Agitation Inventory (CMAI) と Agitation Behavior in Dementia Scale (ABID) により焦燥感を評価した。治療効果は、Wilcoxon rank 検定により評価した。

4. 研究成果

レビー小体型認知症4名の患者は途中で精神症状が悪化し脱落した。残りの14名は治療開始前後の CMAI と ABID が有意に減少した。認知症の焦燥感に関して、介護者に行動的介入療法を行う治療は有効だった。介護者の不

適切な対応により、認知症の精神症状による問題行動が生じている場合が多かった。今後は、症例数を増やし、行動の評価方法や介護者への教育方法、治療方法の技法の改善などを検討していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

- ① Nakaaki, S., Sato, J., Torii, K., Kawaguchi, T, Kawaguchi, A., Narumoto. J., Mimura, M. Reduction in white matter before and after the development of delusions of theft in a patient with Alzheimer Disease . J Neuropsychiatry Clin Neurosci , 2013, (in press) 査読有
- ② Nakaaki, S., Sato, J., Torii, K., Kawaguchi, T, Kawaguchi, A., Narumoto. J., Mimura, M. Neuroanatomical abnormalities before the onset of different types of delusions in a patient with Alzheimer disease. J Neuropsychiatry Clin Neurosci , 2013, (in press) 査読有
- ③ Nakaaki, S., Sato, J., Torii, K., Oka, M., Miyata, J., Mimura, M., (他4名) Decreased white matter integrity before the onset of delusions in patients with Alzheimer's disease: diffusion tensor imaging. Neuropsychiatric Disease and Treatment, 9, 25-29, 2013. 査読有 doi: 10.2147/NDT.S38942.
- ④ Nakaaki, S., Sato, J., Torii, K., Oka, M., Miyata, J., Mimura, M., (他4名) Neuroanatomical abnormalities before onset of delusions in patients with Alzheimer's disease: a voxel-based morphometry study. Neuropsychiatric Disease and Treatment, 9, 1-8, 2013. 査読有 doi: 10.2147/NDT.S38939.
- ⑤ Sato, J., Nakaaki, S., Torii, K., Oka, M., Mimura, M., (他4名) Behavior management approach for agitated behavior in Japanese patients with dementia: a pilot study. Neuropsychiatric Disease and Treatment,

9, 9-14, 2013. 査読有
doi: 10.2147/NDT.S38943.

- ⑥ Maki, Y., Amari, M., Yamaguchi, T., Nakaaki, S., Yamaguchi, H. Anosognosia: patients' distress and self-awareness of deficits in Alzheimer's disease. Am J Alzheimers Dis Other Demen. 27, 339-45, 2012. 査読有
doi: 10.1177/1533317512452039.
- ⑦ Okamura, A., Kitabayashi, Y., Kohigashi, M., Shibata, K., Ishida, T., Narumoto, J., Morioka, C., Kitabayashi, M., Kashima, A., Tani, N., Nakaaki S., Mimura M., Fukui, K. Neuropsychological and functional correlates of clock-drawing test in elderly institutionalized patients with schizophrenia. Psychogeriatrics, 12, 242-7, 2012. 査読有
doi: 10.1111/j.1479-8301
- ⑧ 辰巳 寛, 山本 正彦, 仲秋秀太郎, 波多野 和夫. 失語症者の家族介護者におけるコミュニケーション自己効力感評価尺度, 高次脳機能研究, 32, 514-524, 2012. 査読有

[学会発表] (計4件)

- ① 阪野公一, 仲秋秀太郎, 根木 惇, 鳥井勝義, 橋本伸彦, 佐藤順子, 宮田 淳, 成本 迅, 明智龍男, 三村 將. 脳血流SPECTによるアルツハイマー病の焦燥感と関連する脳部位の検討. 第36回日本神経心理学会総会(東京 学術総合センター), 2012年9月15日
- ② 佐藤順子, 仲秋秀太郎, 鳥井勝義, 阪野公一, 根木 惇, 宮 裕昭, 成本 迅, 山中克夫, 辰巳 寛, 三村 將. 認知症の精神症状に対する行動的介入療法の検証—認知症3例に関する予備的な報告—第27回日本老年精神医学会(大宮ソニックシティ), 2012年6月21日
- ③ 仲秋秀太郎, 佐藤順子, 鳥井勝義, 阪野公一, 根木 惇, 宮 裕昭, 成本 迅, 山中克夫, 辰巳 寛, 宮田 淳, 川口毅恒, 三村 將. 脳形態と拡散テンソル画像

によるアルツハイマー病の精神症状出現予測の検討. 第27回日本老年精神医学会(大宮ソニックシティ), 2012年6月21日

- ④ 佐藤順子, 仲秋秀太郎, 鳥井勝義, 阪野公一, 根木 惇, 辰巳 寛, 三村 將. 認知症の精神症状に対する行動的介入療法の効果研究. 第13回日本認知症ケア学会(アクトシティ浜松), 2012年6月20日

[図書] (計4件)

- ① 佐藤順子, 仲秋秀太郎. Alzheimer病. 三村將, 飯干紀代子 編 コミュニケーションからみた認知症. 医歯薬出版株式会社, 2013(印刷中) 査読無
- ② 仲秋秀太郎, 佐藤順子. 周辺症状 人物誤認. 中島健二, 天野直二, 下濱俊, 富本秀和, 三村將 編. 認知症ハンドブック. 医学書院, 2013(印刷中) 査読無
- ③ 仲秋秀太郎. 周辺症状 . 実行機能障害. 中島健二, 天野直二, 下濱俊, 富本秀和, 三村將 編. 認知症ハンドブック. 医学書院, 2013(印刷中) 査読無
- ④ 仲秋秀太郎, 三村 將. 記憶障害. 脳とこころのプライマリケア 第2巻 知能の衰え. 池田学 編, シナジー出版社, 2013(印刷中) 査読無

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 順子 (SATO JUNKO)

名古屋市立大学・大学院医学研究科・研究員
研究者番号: 90566233

(2) 研究分担者

仲秋 秀太郎 (NAKAAKI SHUTARO)

慶應義塾大学・医学部・特任准教授
研究者番号: 80315879

三村 將 (MIMURA MASARU)
慶応義塾大学・医学部・教授
研究者番号：00190728

辰巳 寛 (TATSUMI HIROSHI)
愛知学院大学・心身科学部・講師
研究者番号：70514058

(3)連携研究者

古川 壽亮 (FURUKAWA TOSHIAKI)
京都大学・医学研究科・教授
(平成22年 研究分担者→平成23年 連
携研究者)
研究者番号:90275123